

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月31日
学校法人 調布学園
調布幼稚園

1. 本園の教育目標

生きる力をはぐくむ

・健康な体 ・豊かな心 ・人とかかわる力 ・やり遂げる力 ・適応する力

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- 1) 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、行事及び活動の見直しを行い教育の質の向上に努める。
- 2) 教育目標の実現に向けて、環境を生かした教育の中で、子どもたちが主体的に活動できるように努める。
- 3) 教員の資質向上を図り、質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、行事及び活動の見直しを行い教育の質の向上に努める	A	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍では実施できなかった活動を行うに当たっては、教員間で複数回の打ち合わせを行い、コロナ禍での経験も活かしながらより良い行事及び活動になるように計画し、実施した。特に、水遊びではなくプール活動を実施することができたことと、運動会や発表会も全園児が同日、同時間帯で開催することができたことは良かった。・園内の畑での収穫物は、子どもたちと一緒に調理をするなど食べる喜びも友達と一緒に味わえるようにすることができた。
2	教育目標の実現に向けて、環境を生かした教育の中で、子どもたちが主体的に活動できるように努める	A	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちとの信頼関係を築き、自分が大切な存在であることを感じられるようにしたり自分らしさを発揮したりしながら活動できるように家庭とも連携を図りながら援助した。・遊びを通して様々な遊具や用具を使い、自分なりに遊びの中に取り入れ、使いこなし主体的に遊びが進められるような環境を整え、学年での担任間の連携を密にしながら進めてきた。・グラウンド、園庭を活用し体を動かして遊んだ

			<p>り、自分たちで遊びを進めたりする中で丈夫な体作りに繋がるようにしてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の畑では、農作活動や虫取りなど、直接的に自然に触れる経験を取り入れ、命の尊さを学んだり、感性豊かな心をはぐくむ機会となるような働きかけに努めた。 ・年少組から3年間に渡って行われる体操の時間は、講師と連携をとり、体力及び運動スキルの向上に繋がるようにした。 ・年中組と年長組の2年間に継続して行われるネイティブの講師による英語の時間では、生活や遊びに必要な英語に触れ、日本語以外の言語にも興味をもつ機会となった。
3	教員の資質向上を図り、質の高い教育の実践を目指す	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究として、併設の中等部高等部情報科教諭を招き教員に対する講演会では ICT 教育に関する知識を深め、年中組と年長組の園児に対してはアクティビティを実施することができた。 ・長期休業中などを利用し、外部研修にオンラインなども含めて積極的に参加するようにした。 ・園内における新任研修を月に1回～2回程度実施した。

評価(A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、園内の活動や行事を見直す機会となった。コロナ前の実施方法にこだわらず、コロナ禍において実施した活動の良い点を残しつつも活動や行事を見直すことができたことは成果に繋がった。中でも、異年齢の交流は子どもの活動の意欲にも繋がった。</p> <p>また、教育目標の実現に向けて教員間で連携を図りながら、活動を進めてきたことは良かった。そして、体操や英語の講師ともコロナ禍ではあまり実施できなかった触れ合う活動や歌などを取り入れて貰うように連携を取ったり、ICT 教育に繋がるアクティビティを実施して下さった先生とは教材の準備から綿密な計画のもと進められた。また、アクティビティの様子を全教員が見学できるように保育の工夫を図るなど、教員の知識能向上に繋がるように連携をとれたことも良かった。</p>

評価(A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園内研究会の充実	・ICT教育に関する園内研修は今後も継続し、教員および園児のスキル向上に繋げる。 ・外部研修(オンライン含む)への積極的な参加
2	行事や活動の見直し	・コロナ前の活動を再開するにあたり、園内の活動方法については教員間で十分に話し合い、園の方針をしっかりと抑え、発達段階を追って計画が立てられるようにする。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- 異年齢交流の機会も増え、目に見える形で交流ができたことは子ども自身も喜んでいて、運動会では下の学年の子に見て貰うことが意欲に繋がる様子も見られた。
- 避難訓練を通じて、自分の身の守り方を見つけて貰っていると感じる。家庭では実践を交えての訓練は難しく話し合いで終わってしまうこともある。幼稚園での毎月の訓練は体験を通じて良い機会となっている。
- きょうだいが卒業しているが、小学校での様子や学校の先生の話から幼稚園で当たり前に行っていたことが学校で発揮されていることが分かる。コロナ禍であっても最大限にできることをしてくださったことに感謝している。
- 先生に褒められることはとても嬉しいようで、家でも「先生に褒められた」とよく話す。また、褒められたことは家庭でも見せてくれたり、頑張りたいと話したりすることもある。
- 先生方が本人の好きなことを認め、伸ばすようなかわりや、意欲の芽をつままないでくださったことが小学校に入ってから自分の好きなことに挑戦する姿に繋がっていると思う。